

島の魅力を巡る

デジタルスタンプラリー

北海道利尻町産業課／利尻島観光推進協議会

竹口和人

観光面での課題解決に向けて

利尻島は日本の最北部に位置し、日本百名山に数えられる秀峰・利尻山を背景に、海拔ゼロメートルから貴重な高山植物が咲き誇る丘陵地帯と、噴火によって形成された奇岩が立ち並ぶ荒々しい海岸線に囲まれた島です。

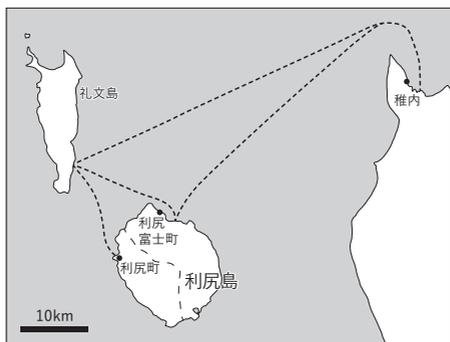
島の経済は、海と山が織りなす壮大な自然景観を活かした観光産業と、対馬暖流とリマン寒流がぶつかり合う豊かな海で育つウニや利尻昆布、アワビなどの豊富な水産資源に恵まれた漁業に支えられています。

二〇一九年、その観光産業が新型コロナウイルス感染症の拡大により大打撃を受けました。緊急事態宣言・まん延防止等重点措置により、国内およびインバウンドの観光客ともに来島者数が大きく減少し、島内の宿泊施設や飲食店をはじめとする観光産業のすべてにおいて、経営の維持が困難なほどのダメージを負いました。

コロナ禍が明けても、

以前より進んでいた団体旅行、グループ旅行の減少の動きが急加速し、よりコンパクトな近距離中心の旅行が主流となったことで、観光収入は激減してしまいました。観光促進キャンペーンなどのおかげで、来島者は徐々にコロナ禍以前にちかひ、数まで戻ってきたものの、島での滞在時間を極力減らした「時短旅行」が目立つようになりました。

この課題解決に向け、二〇二一年度に島での滞在時間および滞在日数の長期化と、観光スポットや宿泊施設・飲食店・



利尻クエストで期待される効果

参加者	<ul style="list-style-type: none"> ①手持ちのスマートフォンで手軽に体験ができる。 ②観光スポットを明確な目的を持って楽しみながら巡る事ができる。 ③もともと旅程に組み込まれていなかったスポットも巡る機会が生まれ、予想外の魅力や特産品と出合うチャンスが増える。
運営	<ul style="list-style-type: none"> ①プレゼント応募時のアンケートを通し、観光客のリアルな声を聞くことができる。 ②参加者の行動データ(回遊ルート、人気スポットなど)を取得・分析することができる。 ③観光スポットの周遊を促し滞在時間と消費を伸ばす事で、観光スポット・宿泊施設・飲食店・小売店への集客や売上向上につながる。 ④スタンプや台紙など、物理的な資源を使わないため管理しやすく環境にも優しい。



島内各所に設置された利尻クエストのチェックポイント。

利尻クエストの概要

小売店などの周遊性を向上させることを目的に、本稿で紹介する「利尻クエスト」をスタートさせました。

利尻クエストは、利尻島を周遊しながら観光を楽しむことをねらいとする、スマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーです。実施にあたっては、内閣府の「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金(以下、有人国境離島交付金)」の

「滞在型観光促進事業」を活用しています。なお、初年度は利尻富士町のみの実施でしたが、翌二〇二二年度以降は利尻町も含めた利尻島全域での実施となりました。

利尻クエストの参加者は、専用サイトに登録した後、島内二〇〇カ所以上に散りばめられたチェックポイントを探索し、島を巡りながら観光スポットや宿泊施設・飲食店などに設置された「QRコード読み取り」や「GPSチェックイン」を行なうことで、ポイントを貯めていきます。貯めたポイントに応じて、島の特産品やフェリーチケット、航空券、宿泊券

などの豪華景品が当たる抽選に応募できる仕組みです。利尻クエストにより、参加者・運営双方にとって、表（前ページ）のようなメリットの創出が期待されます。

参加者・参加施設からの反響

参加者および参加施設に対してのアンケート結果は、利尻クエストの目的達成度と参加満足度を計る指標となります。いただいた意見を参考に、翌年度の企画の改良に向けたフィードバックを行なっています。以下にコメントを抜粋して紹介します。

リピート率の向上

・ゲーム感覚で楽しく参加できて、「ここにも行ってみよう!」「ここで食べてみよう!」と、もともと行く予定のなかった観光地や飲食店もあちこち回ることができ、旅の思い出がより一層充実しました。

・特にどこが見たいとか何が食べたいとかを考えず、漠然と島へ渡って来たのですが、(利尻クエストの)おかげでいろいろ美しい場所を見ることができました。知人が利尻在住でしたが、地元の人ですら見逃すような場所にも行けてすごく楽しめました。

・利尻クエストのおかげで島を満喫できました。特に南浜湿原が素晴らしかった! クエストがなければ場所も分からずに通り過ぎてしまっていたかもしれない、最高の環境に行けて良かったと心から思っています。今回は利尻富士に登ってみたいので、また来ます!

このように利尻クエストをきっかけに、来島前に調べて旅程に入れていた観光スポット以外の場所や特産品に出合ったという声が多く寄せられています。また、本企画が島内の観光スポット同士をつなぐ、導線の役割を担っていることがうかがえます。

利尻島への旅は、アクセスや費用面でハードルがあるため、コロナ禍以降は特に北海道内の他の主要な観光地と比較して、リピート率の低迷が目立っていました。利尻クエストに参加することで「回り切れなかった観光スポット」や「食べることでできなかった特産品」などが明確になり、来島者の「もう一度来たい!」という思いの喚起につながっています。今後この企画を継続して、リピート率のさらなる向上を目指していきたいです。

地域住民との交流

・島内を観光しているとさまざまな場所で、利尻クエストに参加している方と出会い、会話が弾みました。また、クエ

ストのポイント箇所でも悩んでいる時に、地元の方たちに優しくいろいろと教えてもらったことが素敵な旅の思い出となりました！

・利尻クエストのおかげで、初めての利尻島をすごく楽しく回ることができました。回った場所で出会った町民の方や、島へ移住してきた方が優しく接してくれたので、自然以外の利尻の魅力にたくさん触れることができました。

利尻クエストという共通ワードを起点に、地域住民やこの企画の参加者との間に交流が生まれています。偶然の出会いがスパイスとなり、より記憶に残る旅の形成につながっていると思われれます。

参加施設も高評価

・「クエストに参加している」というお客様が年々増加している。立ち寄り予定ではなかった場所にも足を運んでいただけるので、良い企画だと思います。

・当店は少しわかりにくい場所にあるので、観光のお客様に場所を探して来てもらえる利尻クエストは、非常



利尻島の名産「ウニ丼」。クエストに参加する島の飲食店での食事でもポイントが貯まる。



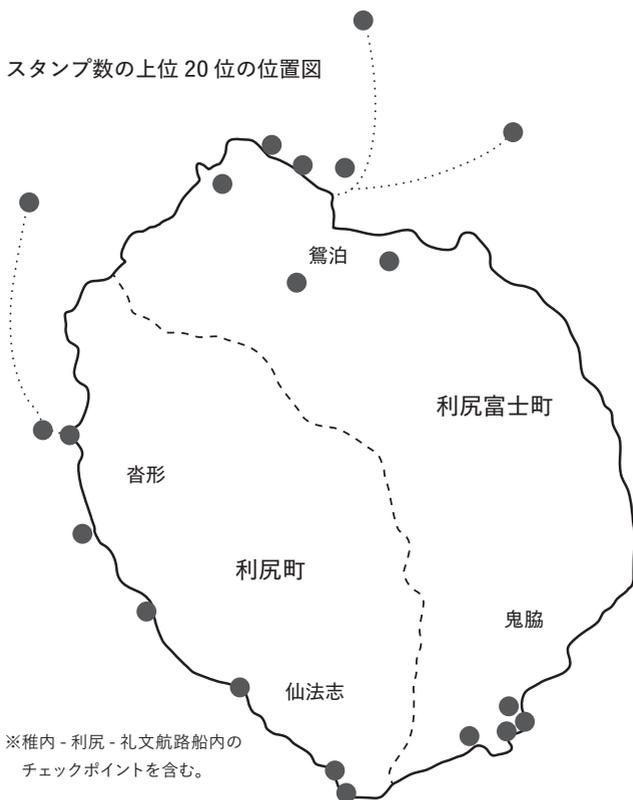
クルーズ船の寄港時や島内の各祭りなどイベント限定のチェックポイントも。

にありがたく感じています。

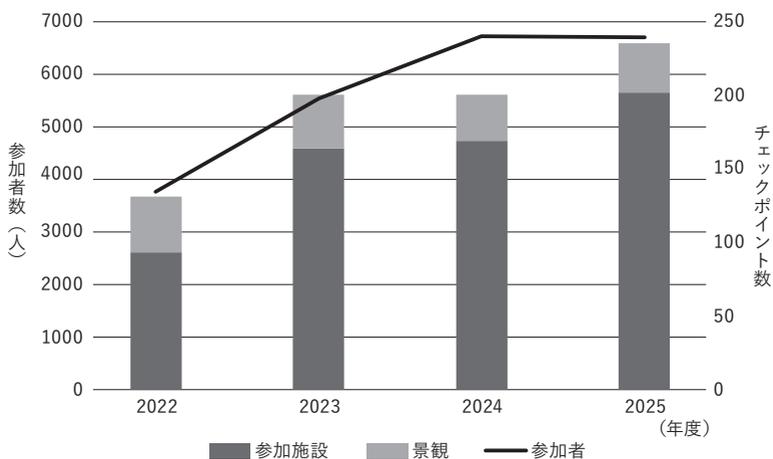
・利尻クエストに関する話題が生まれるためお客様との会話のきっかけを作りやすく、距離を縮めるコミュニケーションツールとしても役立っている。

・利尻島は雨天時に見る場所が少ないのですが、利尻クエストが良い意味での「暇つぶし」になっていると思います。また、雨天時に見学できる観光スポットもポイント箇所になっているので訪問先を勧める際に役立っています。

スタンプ数の上位 20 位の位置図



利尻クエスト参加者とチェックポイント数(参加施設+景観)の推移



※2021年度は利尻富士町のみでの実施のため除いた。

参加施設からいただいた回答も概ね好意的で、企画のねらい通り、周遊性の向上や交流の創出につながっていることが読み取れます。

さらなる滞在型観光の醸成を目指して

これまで五年にわたり継続してきたことで、利尻クエストの認知度は向上し、参加者および参加施設は、順調に増加しています。従来のように受け身で観光地を巡るのではなく、利尻クエストを通じて、「能動的に島を体感する」「新しい観光スタイルが浸透しつつある」と感じます。

また、企画のねらいである滞在時間の長期化について、二〇二二～二五年のアンケート結果を比較すると、「利尻島での滞在日数」における二泊以上と回答した割合が増加（六五・九→七八・七パーセント）しています。「利尻クエストの影響で改善された」と言い切れることはむしろ少ないものの、本企画による一定の成果が表れてきていると考えられます。さらに、参加者がスタンプを獲得した上位二〇地点（前ページ図参照）を見ると、一つの地域に偏るのではなく、島内をくまなく訪れており、周遊性向上の成果も示されています。

オーバーツーリズムを防ぐ観点から、今後、一度に大量の観光客が来島するマスツーリズムはさらに衰退し、観光の主軸がよりコンパクトになっていくことが予想されます。この

ため、地域の観光スポットの整備、民間の宿泊施設や飲食店・小売店との連携、ガイド付きアクティビティの充実など、観光客の皆様からいただいた個々の声に耳を傾け、より一層観光地としてブラッシュアップしていくことが求められています。

新規観光客を単なる「消費者」とみるのではなく、新規観光客からリピーターへ、そして最終的にはリピーターから地域を持続的に応援してくれて何度でも遊びに来てくれる関係人口、「利尻島のファン」の獲得が重要になってくると感じています。

近年では、現地ならではの体験や住民との親密な交流など、よい意味で観光化されていない、ソフト面を重視した旅行が好まれる傾向があります。「観光客」「観光施設従事者」「地元住民」の連携を強め、今後の利尻島をより持続可能で魅力的な観光地へと進化させられるよう、今後も利尻クエストの認知度を上げ、利尻島の観光には欠かせない魅力的なコンテンツとして継続していきたいと思えます。

竹口和人（たけぐちかずひと）

北海道利尻町出身。一九九八年より利尻町役場勤務。現在は観光振興を担当し、隣町の利尻富士町、隣島の礼文町とともに、利尻島観光推進協議会や利尻礼文観光推進協議会事務局の運営に携わる。